

試験管

無造作に書きなぐられた文字に
おびたしい血が流れ
その鼓動は僕を突き落とす

灰色の低い雲は運ぶだろう
知るがいい
この指先に溶ける白い結晶を

知を統べる者に
新たなる言葉は枯れ尽き
幾万の古語はただ整列する

哀れな詩人達は生命をすり減らす
まるで血を流すことが
それだけが詩を生み出すと信じるかのように

かつて僕らの慄えは大気に滲んだ
今、大気は自らの色を守ろうとしている
僕らは鏡を発明しなくてはならなかった

流れ出す血を分析すること
それが残された道なのだ
詩人たちを滅びに導く唯一の道なのだ

(1994.2.6)